

目次

藤原定家「堀河院題百首」覚書

加藤 睦 2

又吉栄喜「ギンネム屋敷」論——「悲鳴」としての「握りこぶし」——

仲井眞建一 15

骨を見る靈魂——中原中也「骨」論

吉田 恵理 29

明治三十四年の川上音二郎——国内諸地域における帰朝公演の考察

後藤 隆基 43

回想される〈風景〉——永井荷風「問はずがたり」を読む

嶋田 直哉 55

〈名探偵〉からの逸脱

——小栗虫太郎「聖アレキセイ寺院の惨劇」を中心に

松田 祥平 67

杉田観梅紀行文における美辞麗句

——月ヶ瀬梅林と同質化される風景——

湯本 優希 79

光源氏にとつての「たぐひなし」——紫の上へのまなざし——

泉屋 咲月 93

大岡昇平の〈戦争〉——『俘虜記』を読む

石崎 等 106

書評 小菅麻起子著『初期寺山修司研究「チェホフ祭」から『空には本』』

後藤 隆基 120

二〇一五年度日本文学専修教員担当講義題目一覧

二〇一四年度博士論文・修士論文・卒業論文題目一覧

彙報・編集後記

立教大学日本文学

第一一四号

二〇一五年七月